

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2491300014
法人名	株式会社 センチュリークリエイティブ
事業所名	グループホーム あみーご鴻之台
所在地 (電話番号)	(電 話) 0595-62-3344
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 20 年 4 月 23 日(水)

【情報提供票より】 (H20年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 5 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 4人, 非常勤 5人, 常勤換算 5.6人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	24,000 円~	
敷 金	有(円) <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> 有 200,000 円	有りの場合 償却の有無	有 / <input checked="" type="radio"/> 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	600 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,500円			

(4) 利用者の概要(4 月 1 日現在)

利用者人数	8 名	男性	3 名	女性	5 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 81 歳	最低	74 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	メンタルクリニック 福西胃腸科外科
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

緑の多い閑静な住宅街に建つ社員寮を、高齢者の生活に配慮の行き届いた改修を加えて開設されたグループホームである。
開設1年足らずの新しい事業所で、職員は他種介護事業所での経験者が多く採用されている。職員はグループホームでの業務の特異性に試行錯誤する所も多かったが、今春から若い介護主任が管理者に抜擢され、経験豊かなケアマネジャーや新介護主任と協力し、利用者・職員全員で話し合っ事業所の指針となる理念から作り直しを行っている。今後、運営全般も見直して行く計画で、柔軟性のある管理者の下、全員の経験を資源に、より質の高いサービスの提供が期待される事業所となっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	初回調査につき記載なし。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目 ②	職員会議で評価の意義や手法を話し合い、全職員で担当分野ごとに項目を分け取り組み、検討を重ね自己評価票に纏められている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 行政担当者や区長・協力医の出席で第1回会議(4月18日)が開催されたところである。会議では、事業所の現状報告と出席者からの助言や要望等の活発な意見が出されている。今後出席者の貴重な意見は職員会議で議題として話し合いが持たれることとなっている。
重点項目 ③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関カウンターに事業所内・外の相談窓口を明記した文章や“ご意見箱”が設置されている。また、家族会(年2回開催)や家族訪問時に職員が声掛けをして意見の抽出を図っている。聞き出した意見や相談には個々の職員が対応し解決している事が多いが、事業所としての対応システムの構築が課題となっている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	開設1年弱の為、自治会に加入し行事(清掃・祭り)に参加しているだけであるが、運営推進会議や地域の行政機関・老人会等を通じた幅広い交流を模索している。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	今春新しく、地域に溶け込んだ心優しい豊かな事業所を目指し、利用者を交え職員全員で話し合い、温かい理念が作り上げられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員で作上げた理念を誇りに、日々の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し行事(清掃・祭り)に参加している。	○	自治会を通じた交流だけでなく、地域の老人会や幼稚園・学校・行政機関等と幅広い接点を持ち双方向の交流を図って行かれることを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	初回実施に当たり、職員会議で評価の意義や手法を話し合い、担当分野ごとに評価項目を分け全職員で取り組み、検討を重ね自己評価票を完成させている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	第1回を今月(4月18日)行政担当者・区長・協力医の出席で開催している。会議では事業者からの現状報告と出席者からの意見や要望等が活発に話し合われており、議事録も整備されている。	○	地域に密着したサービス推進の為には、2ヶ月に1回程度の継続した開催が期待される。その為にも会議のメンバーを固定する事無く、地域の身近な有識者(民生委員・老人会役員等)に幅広く参加を呼びかけ気軽に意見交換していただける場にされることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は事業所の課題を地域包括支援センターに相談することも多く、行政担当者との交流は深い。また、市の介護相談員の訪問も受諾しており、訪問報告書を貴重な意見としてサービス向上に活かしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	暮らしぶりや健康状態は家族の訪問時や受診支援時に電話や手紙でその都度報告している。金銭管理は立替方式で、家族に事前了解の上立て替え、明細を毎月報告し請求している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会(年2回開催)や家族の訪問時に職員が声を掛け意見抽出を図っている。玄関カウンターには“ご意見箱”も設置され、事業所内・外の相談窓口が明記された文章も置かれている。	○	職員は家族等の意見や相談にのっているが、その場で解決に到っていることが多い。個別対応で終わるのではなく相談内容を記録に残し、全体の課題点として取り組んで行かれることを期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設(平成19年5月)時には非常勤職員の定着が悪かったが、安定してきている。離職時には馴染みの関係が出来ている併設デイサービスの職員の協力等も得て、利用者への影響が出ないような支援に努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	開設1年目で外部研修には管理者やケアマネジャーが受講している。研修内容はケア会議等とその都度全職員に報告すると共に、経験豊かなケアマネジャーや介護主任をスーパーバイザーとして内部研修の充実を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の介護事業所連絡会での交流や法人内の他グループホームとの密接な連携を通じ、サービスの向上を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
	12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	開設時は退院即入居の重度介護者の利用が多かったが、認知症デイサービスも併設され、馴染みながらの入居への体制が整ってきている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
	13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	みんなで作り上げた理念にも掲げられており、日々の生活の中で大切に育まれている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
	14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員一人ひとりが意識を持って把握に努め、週1回のケア会議で職員の共通認識に高めるように話し合われている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
	15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者が家族の意向や主治医の見解・職員の意見を整理し、アセスメントに副った具体的な介護計画が作成されている。	
	16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケア会議(週1回開催)で月1回は利用者一人ひとりのモニタリングが行われており、3ヶ月毎の計画見直しに繋げている。	

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者・家族の希望に副って通院介助や外食・日帰り旅行等個別やグループでの支援が行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人・家族に協力医の紹介をすると共に、かかりつけ医受診を継続するかを選択してもらい、管理者が希望に副った医療機関と連携を取り支援に当たっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	往診可能な医師等との協力体制が整っておらず、利用者の重度化に対し、その都度、家族や主治医と話し合いながら対応策を考え支援してきている。	○	重度化・終末期への事業所としての指針を早期から利用者・家族に示していく事は大切である。事業所が対応できる最大の支援体制を具体的に話し合い指針を構築されることを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	新任研修時からプライバシー確保の重要性、特に言葉遣いについての教育を徹底し、職員間で認識し合っている。個人記録の取り扱いも事務所内で適切に管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各利用者の1日の流れは決まってきているので、それに合わせてその日の気分やペースに副った温かい介護が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	開設時に男性利用者や重度介護者が多く、調理は業者委託されているが、その分職員に余裕が見られ穏やかな介助が行われている。また女性利用者が配膳や後片付けを生き生きと手伝っている姿も見られた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日午前中から入浴準備は整っており、声掛けをしながら希望・様態に副った入浴支援が行われている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者の出来る事・得意な分野を十分理解しており、園芸や洗車・清掃等で楽しみながら出番を発揮してもらうよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望者には要望に副った買い物や外食・散歩等の外出支援が行われている。	○	希望者への外出支援にとどまらず、外出嫌いの利用者にも外気に触れ気分転換を図ってもらう上で日常的な外出の機会を作ることが必要と考えられる。散歩を日課にするなど、気軽に出来る事から実行されることを期待する。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関はオートロックになっており自由に開閉ができない。	○	社員寮改修型事業所で設備として整っていた物を漫然と使ってきている。職員の安心感を優先するのではなく、利用者の行動を阻害している所はないか職員間で良く話し合い、日中施錠しない安全で自由な暮らしを支える方策を検討されることが望まれる。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	119番直通通報装置と消火器が設置されているだけで、開設以来防災訓練等は行っていない。	○	非常時連絡網や災害時マニュアルを早急に作成されることが望まれる。また、非難経路の確認・避難訓練を消防署の指導のもとに行うと共に自主的にも実践的な訓練を繰り返されることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は業者委託されており、管理栄養士が考慮したメニューを利用者の様態に合わせ調理し提供されている。一人ひとりの摂取量(食事・水分)は毎回記録されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	社員寮を改修した事業所で共用空間はどこも広く明るく作られており、そこを高齢者の生活に配慮した畳みコーナーや手すり・スロープ等を設置することで、居心地の良い空間作りが施されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物品も持ち込まれ、思い思いの居室作りがなされている。		